
あの日の思い出After ~ 交流の街TOWN ~

雷那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あの日の思い出After 〈交流の街TOWN〉

【Nコード】

N1581BA

【作者名】

雷那

【あらすじ】

「交流の街TOWN」。

アイコンチャットと同じくたくさんの出会いや体験があった場所。

今回は交流の街TOWNで繰り広げられたくるあとタウンメンバーが繰り広げる愉快的な物語です。

この小説は、「あの日の思い出」の外伝的な作品です。

これを読む前に「あの日の思い出」を読んでおかないとたぶ

んというより絶対意味がわかりません。

短編で書いていましたが長編へと変更しました

思い（前書き）

この小説は、「あの日の思い出」の外伝作品です。

思い

アイコンチャットそれは僕にとってかけがえのない場所。

そこではたくさんのお会いがあった。

そして楽しいこと悲しいこと辛いことなど様々なことがあった。

そんなことがあったからこそアイコンチャットが僕にとってのかけがえのない場所になったんだと思う。

そしてもう一つアイコンチャットと同じくらい大切な場所がある。

「交流の街TOWN」。

アイコンチャットと同じくたくさんのお会いや体験があった場所。

そんなこんなで今回は交流の街TOWNで繰り広げられた僕とタウンのメンバーの愉快？な物語

交流の街TOWN

8月24日。

夏休み終了まで残りわずかとなっていた。

僕は相変わらずすることもないので冷房をつけてパソコンの前に座っていた。

くろあ：こんー

タモリ：おいつす！

めぐ：くろあさんこんにちわw

ファイナルアサシン：こんちゃ〜

りよっち：こんにちは。

いちご：あ、くろあだw

いつもと同じく交流の街TOWNにはおなじみのメンバーが揃っていた。

こんな時間から結構人が居るってことはもしかして皆暇なのかな？
まあ僕は人のこと言えないんだけど・・・。

めぐ：夏休みも残り少なくなってきましたねえ。。

いちご：そうだねえ、あと1週間しかないよw

ファイナルアサシン：それを言うなよ、鬱になる・・・。

りよっち：同じくです・・・。

皆が考えていることは同じようだし。やっぱり皆は似たもの同士のようだ・・・。

タモリ：そんな話はどうでもいいが、それよりくろあ最近どうよ？
くろあ：いや、いきなり最近どうよって聞かれても・・・。昨日夕

モリと会っただろ？

昨日タモリとは他の友達と一緒に遊びに行っただけだ。
ちなみにタモリと僕はリアルで友達同士である。

タモリ：違う違うw w全くくるあは天然だなあw

めぐ：確かにくるあさんって天然なところありますよねw

くるあ：天然って言われてもな……。ていうかタモリは何が言いたいんだよ？

タモリ：そんなの決まってるだろw最近彼女とはどうなってるか聞
いてるんだよw

いちご：あー！私もそれ気になってたw

りよっち：そういえばくるあさん彼女さんができたんですね。

ファイナルアサシン：俺も気になるぜ！！

めぐ：私もタウン内の結婚相手として気になります！！

タモリが余計なことを言ったせいで、皆が急にいきいきとし始めた。
タモリが言う彼女とは「むらあ」のことだ。タウンの方では「羅夢」
という名前だ。

むらあとは先日行われたアイコンチャットでのオフ会の時にめでた
く付き合うこととなった。

むらあというより彼女ができたということはアイコンチャットだけ
ではなくタウンの方で僕と仲良くしている人たちには教えていた。
今思えば教えなかった方がよかったのかもしれない……。

くるあ：どうって言われても普通だけど……

ファイナルアサシン：普通って……、もっと具体的に言えよw

いちご：そうだよ、絶対なにかやってるでしょ！

くるあ：そうだな……。基本毎日メールや電話はしてるよ。それ
にチャットの方もしてるし。

めぐ：え、それだけなんですか？

くろあ：うん、そうだけど・・・。

タモリ：嘘だっ！ありえないだろ！恋人なんだぞ！もっとなんか別のことするだろ！！

タモリが言ってる別のことって一体なんのことだろうか・・・。

くろあ：そんなこと言われても遠距離恋愛だし。

リアルで僕とむらあが住んでいる場所は結構離れている。なので会いたくても会えない。

いちご：そんなの関係ないよ！距離なんてがんばればなんとかなるよ！

りよっち：そうですよ。くろあさんあなたならできるはずですよ！

タモリ：そうだぜ！突き進めくろあ！

なんで皆はこんなに熱くなってるんだろうか・・・。

くろあ：いや、皆がそう励ましてくれるのは嬉しいんだけど明らかに無理だつて。会いに行きたくてもお金が物凄くかかるんだよ・・・。それに学生だし金そんなにあるわけじゃないし。

というより本当は僕が急にむらあに会いに行く勇気がないってこともあるんだけど

めぐ：確かにそうですよね・・・。

りよっち：まだ僕たち高校生ですもんね。。

くろあ：そうだろ。だからしょうがないんだよ

やっと皆わかってくれたようだな。少しは考えてくれるといいんだ

けど……。

タモリ：いや、まだ納得できん！

人がホッと一息つけたと思ったらまだ一名納得いつてないやつが居るとは……。

くろあ：だから、タモリ無理なんだって。お前だつてわかるだろ？

タモリ：わからん！それよりくろあ、今から彼女を連れてこい！！

くろあ：え、お前何言つてんだ？

ファイナルアサシン：お、なんか楽しくなりそうな展開だな！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1581ba/>

あの日の思い出After ~ 交流の街TOWN ~

2012年1月4日00時52分発行